

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2533 号

Development of a new measurement tool (Ambulation Independence Measure) to assess gait ability in acute stroke patients

急性期脳卒中患者に対する歩行評価法の開発 (Ambulation Independence Measure)

林 祐介 (はやし ゆうすけ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

脳卒中急性期における歩行評価には使用装具の影響が大きい。歩行能力が改善することにより長下肢装具から短下肢装具、装具なし歩行へと進んでいく。しかしながら従来の歩行評価ではこの使用装具の変化が反映されないという問題があった。そのため、装具の種類によっては歩行能力を過大評価する可能性がある。本論文は、急性期脳卒中患者において、使用する下肢装具を規定した歩行自立度評価法 (Ambulation Independence Measure ; AIM) を作成し、その検者間信頼性、併存的妥当性および予測的妥当性を検証している。一側大脳半球脳卒中患者 73 例に対して検証した結果、検者間信頼性に関しては、AIM の重み付き kappa 係数は、baseline が 0.99、退院時が 0.98 といずれも高く、優れた信頼性を認めた。併存的妥当性に関しては、既存の標準的歩行評価法である Functional Ambulation Category (FAC) との相関を検討しており、AIM と FAC の間には、baseline ($r=0.81$) と退院時 ($r=0.93$) のいずれも有意な高い相関を認めた。予測的妥当性に関しては、退院時の FAC を予測する baseline 指標を重回帰分析にて検討しており、最も強力な予後予測因子は AIM ($\beta=0.61$) であることが示され、FAC よりも優れた予測的妥当性であった。使用装具を反映した歩行評価である AIM は、急性期脳卒中患者において、信頼性と妥当性に優れた歩行評価であることを示しており、本論文は臨床的な意義がある。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。